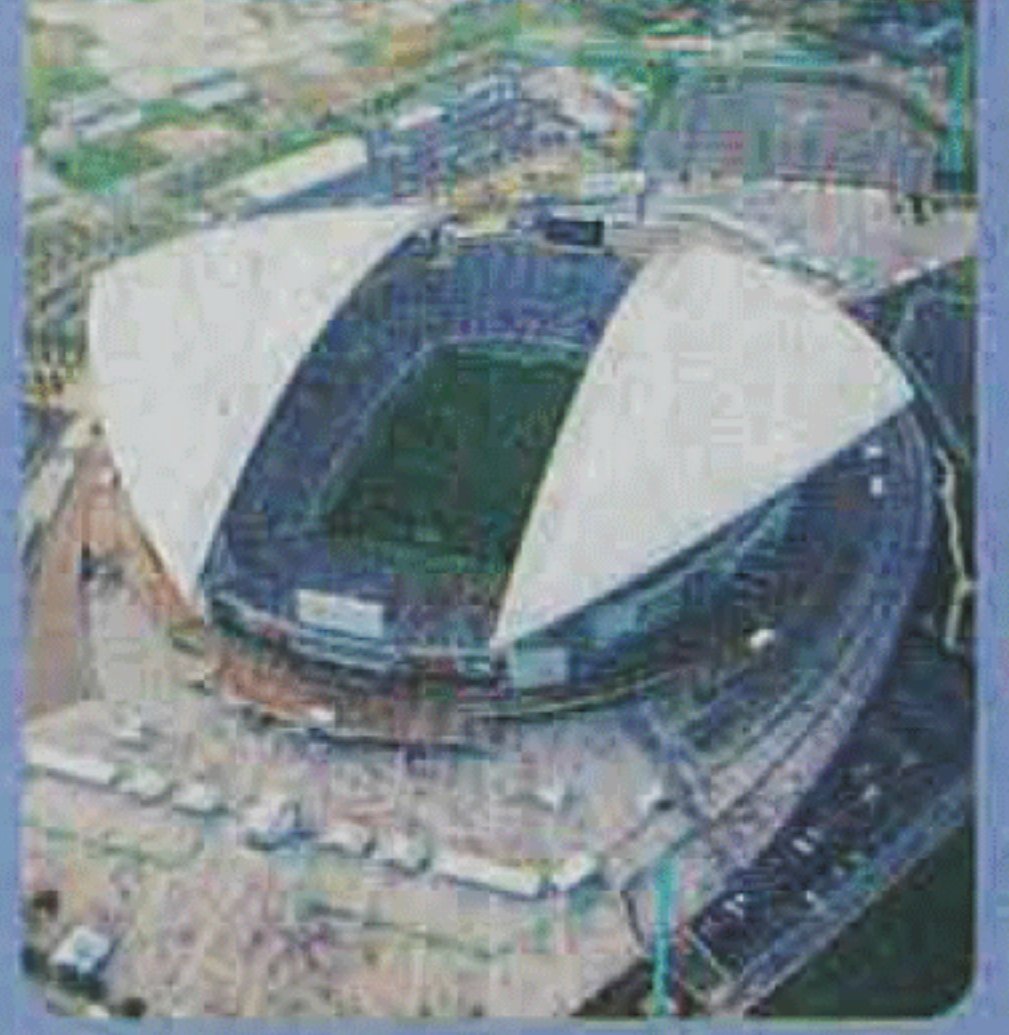


埼玉
SAITAMA



さいたま総局
〒330-0063
さいたま市浦和区
高砂1-2-1

電話 048-829-2311(代)
FAX 048-830-1091
saitama@sankei.co.jp

広告 048-834-1211

購読申し込み・
配達・集金

0120-34-4646

紙面・記事

0570-046460

Web

https://www.sankei.com/
/region/

聖火リレー1日目

蕨、戸田で聖火つなぐ

東京五輪の聖火リレーが6日、県内でも始まり、蕨市や戸田市などを通るコースでランナーたちが聖火をつないだ。8日までの3日間で県内計38市町を巡る予定だ。一方、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公道走行が中止された川口市では6日、代替措置として「出発記念式」が開かれた。

亡きランナーの思いも込め

北京五輪ボート出場 浜田美咲さん



6日の聖火リレーで戸田市を走る予定だった石黒昇さんは、2月に88歳で亡く

なった。1964年東京五輪に20^キ競歩で出場した石黒さんは「あきらめずに努力すれば報われると若者に伝えたい」という思いでリレーを心待ちにしていたという。石黒さんの代わりにランナーを務めた浜田美咲さん(38)は、石黒さんの写真をポケットに入れ、その

思いをかみしめながら153^{キロ}の区間を駆け抜けた。浜田さんは石黒さんと同じくオリンピックだ。ボート女子軽量級ダブルスカルで2008年北京五輪に出場した経験を持ち、聖火リレーにかける石黒さんの思いにも共感を抱いていた。走り終えた浜田さんは

「たぐさんの人が笑顔で手を振ってくれてうれしかった」と振り返り、「石黒さんと一緒に走っているつもりで走った。天国からこの姿を見ていただけたなら」と思いを語った。

石黒さんの長女、かおるさん(59)は父の遺影を持ってリレーを見守り、聖火をつないだ浜田さんに「ありがとございませう」と伝えた。

「お父さんが天国から降りてきて、一緒に手を振って走っているように思えた」

かおるさんは涙ぐみながら天をおいだ。

(深津響、写真も)



東京五輪の聖火リレーに臨む浜田美咲さん＝6日午前、戸田市